

## 1 子どもの学習支援事業（鹿沼市委託事業）

### (1)実施日及び場所

- 毎週土曜日：東部台コミュニティーセンター
- 毎週火曜日：南摩コミュニティーセンター
- 毎週水曜日：鹿沼市民情報センター
- 毎週日曜日：菊沢コミュニティーセンター

### <その他の活動場所>

- こども食堂 タケノコ（英語・数学）
- 森の小人（学習相談 不登校相談）
- 文化活動交流館ピュルテ（調理実習 不登校相談）

### (2)内容

- ・教科指導 芸術活動 コミュニケーション プログラミング・パソコン指導
- ・不登校相談等教育相談
- ・保護者交流会
- ・兄弟支援

### (3)講師

教職員退職者、塾講師、大学生 その他 33名

### (4)児童生徒利用者数

コミセン登録 91名  
（こども食堂では希望者が随時参加）

### (5)成果と課題

- ・本年度も全体では登録者は減少したが、よりニーズのある家庭の相談や臨時対応が増えた。特に小3以下の兄弟姉妹の利用が増えた。
- ・昨年度と同じ場所で開催したので継続して児童生徒が参加し、講師の先生方との信頼関係ができ、学習効率が上がった。
- ・コロナ対策で休止した分の学習支援を子ども食堂で行った。
- ・保護者の希望により、小学校低学年から受け入れた。レスパイト的な役割も担った。
- ・2時間の学習への集中が難しい児童生徒が多くいたので小グループの芸術活動、パソコ

ン体験を取り入れた。

・本年度の個別面談は希望者のみ行った。虐待ケースなどの対応を子ども食堂、家庭相談員とともにいった。

・学習だけでなく、芸術家を招いた創作・音楽活動など楽しく学ぶ活動ができた。

## 2 フリースクールでの学習指導

### (1) 小中高生徒

・フリースクール希望の児童生徒に、福祉サービスを紹介し、Epicに在籍するケースが増えている。不登校という主訴から、教育と療育の連携が必要である。またそれぞれの役割を明確にしていく必要がある。

・経済的に困窮している家庭は学習支援事業の中で随時対応した。

・絵画教室では、高齢者と小学生がデッサンを習い、お互いに交流することができた

### (2) 専攻科

・フリースクールと就労継続B型事業所を併用する方2名は、卓球、ゴルフなどのスポーツ活動を行った。

・教習所を卒業後、余暇支援を希望する青年2名は、ボランティア活動や地域の行事に参加。

・メンタルサポート2名

・ほわっと自然村での調理実習 農業などへの参加2名

### (3) あおぞら学習支援（運転免許取得）

・長期利用者 オンライン2名 対面3名、うち鹿沼に移住1名

・短期利用者 月平均3～4名

・一回60分から90分の個別指導（おおよそ45点を7回とれるようになるとつばさプランに入ることができる。）

### (4) 成果と課題

・ほわっと自然村での活動・講座に随時参加し、新しい価値観に触れ視野を広げることができた。

・「ほわっと自然村 自由学校」設立に向けて、学習会やコンセプトの確認、環境整備についての話し合いが行われたが、学校設立は別の場所となり、現段階では、農業を中心とするフリースペース活動のみをすることとなった。

・あおぞら長期学習では、成果がみえにくく、目標の見直しも視野に入れた対応が必要である。

### 3 多様性を認め合うまちづくり

#### (1) 無量荘との連携

- ・ボランティア活動 昼食交流 介護福祉体験

#### (2) 「生きいきこっとな村」事業との連携

- ・調理、手芸、文芸、農業等定期的な居場所活動（火・木10時～15時）
- ・ひきこもり支援アウトリーチ事業との連携
- ・綿製品の販売促進

#### (3) こども食堂協議会

- ・孤食防止 調理手伝いなど交流の場
- ・困窮家庭からの緊急避難の居場所提供 宿泊支援  
毎週月曜日：仁神堂 森のこびと  
隔週金曜日：上殿 タケノコ食堂  
毎週土曜日：東部台コミュニティーセンター  
毎月8のつく日：子ども食堂「ようき」

#### (4) こども未来（一社）との連携

- 子どもの居場所事業 表現活動 サンデーウォーキング  
文化活動交流館「カフェピュルテ」運営 野菜販売  
若者支援 不登校支援 高卒資格取得相談

#### (5) 住居提供と生活支援

- あおぞらプラン「イースタンハイツ」との連携  
短期宿泊 金子シェアハウス

#### (6) 成果と課題

- ・ほわっと自然村、「みんなのおうち」など地域の居場所が増えたが、まだ十分周知されていない。必要な方に届くような広報の仕組みが必要である。
- ・コロナ渦から、こども若者の問題が深刻化、複雑化している。子供の居場所事業など、行政と連携を密にしたサポート体制がさらに必要である。
- ・発達障害を有する親の子育て支援のニーズが高まり、子ども食堂が親の子育て相談を担うようになったが、より専門性のあるかかわりが求められている。

## 5 各種講演活動

- (1) 発達障害者運転免許取得事業全国研修会
- (2) 全指連発達障害者教習支援指導者研修会
- (3) 栃木市まちづくり協議会講演会

### (5) 成果と課題

コロナ渦が長引き深刻な引きこもり状態が増えている。オンライン学習や個別学習の必要性がますます高まっている。

逆にオンラインの日常化により、遠方でもつながりあえる相談支援や講座受講ができるようになり、新しい交流の形ができてきている。

今後は、新しくできるフリースクールの拠点での活動内容を吟味しながら、教育と療育の在り方、不登校を出さない学校教育の考え方を深めていきたい。